

# 令和6年度 森林環境学習推進事業

## 「生き生きオートムキャンプ」 事業報告

- 1 趣 旨 森林の豊かさを体感できる自然体験活動を通じて、児童生徒の森林環境への興味・関心を高め、豊かな情操を育むとともに異年齢集団による共同活動や選択活動等により自己の課題と向き合い、仲間と協力し乗り越えさせることで、自己肯定感や生きる力を育てる。

※SDGsの17の持続可能な開発目標のうち、関連する個別目標



4.質の高い教育をみんなに



5.ジェンダー平等を実現しよう



15.陸の豊かさも守ろう



17.パートナーシップで目標を達成しよう

- 2 主 催 大分県教育委員会

- 3 期 日 令和6年12月7日(土)～8日(日) 1泊2日

- 4 会場 大分県立香々地青少年の家

〒872-1202 豊後高田市香々地5151番地

TEL 0978-54-2096 FAX 0978-54-2152

- 5 参加者 県内の小学5年生から中学2年生までの児童生徒16名  
(小5:7名、小6:1名、中1:6名、中2:2名)

### 6 活動プログラム

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
12月7日								受付 出会 いの集 い	テ ン ト 設 営 新 割 り	野 外 炊 飯 ① ・竹 で 御 飯 炊 き ・ち ゃ ん こ 鍋 づ く り			た き 火 振 り 返 り	入 浴	就 寝 ソ ロ テ ン ト (1 人 用) で 就 寝			
12月8日	起 床	日 の 出 を 見 る 野 外 炊 飯 ② ・メ ス テ ィ ン で 御 飯 炊 き 米 と お か ず は 持 参	焼 き 芋 づ く り 木 で 遊 ぼ う モ ル ッ ク	テ ン ト 片 付 け	屋 食 所 内 弁 当	振 り 返 り 発 表 準 備	別 れ の 集 い 解 散											

## <1日目> 出会いのつどい テント設営 薪割り 竹飯 ちゃんこ鍋 たき火

### ☆活動の様子

- ・自己紹介ゲーム後、互いにキャンプネームを呼び合い、アイスブレイクとして「あいこじゃんけん」と「動物の名前集め」を行った。参加者の緊張感がほぐれていった。2日間のめあて「プラスの言葉をたくさん使おう」・「自分で選ぶ、決める」を共有し、スタートすることができた。
- ・テント設営では、1人1張ソロテントを設営した。天気予報では2日目朝が雨予報だったため、宿泊場所を屋外からプレイホールへと変更した。1人での設営にチャレンジする子もいれば、協力しながら設営する子もいた。
- ・安全な薪割りのやり方を聞いた後、1人1人割りばし程度の大きさになるまでナイフを使って薪割りを行った。
- ・野外炊飯では、竹飯とちゃんこ鍋を作った。竹飯作りは竹を選び、のこぎりを使って蓋を作った。ちゃんこ鍋は、班ごとに役割分担をして協力して作ることができた。「美味しい」の声がたくさん聞こえ、身体も温まった。
- ・自分達で割った焚き木を使い、焚き火を行った。周囲の照明も消し、大小の焚き火の明るさを楽しんだ。1日の振り返りを行い、言われてうれしかった言葉や頑張りを発表し合った。



### ☆指導のポイント

- ・参加者の緊張を軽減できるように、アイスブレイクや笑顔で声かけを行った。
- ・野外炊飯では、竹の切り方やちゃんこ鍋づくりの味付け等、子どもたちの自主性を大切にしながら、指導・支援を行った。
- ・活動ごとに選択肢を用意し、自分で選ぶ場面を作った。その結果、上手いかわからなくてもプラスの言葉がけをして自己肯定感を持てるように工夫した。



## <2日目> 朝食づくり 焼き芋づくり モルック

### ☆活動の様子

- ・朝食では、1合の米をメスティンで炊いた。選んで持参したおかずと一緒に食べた。
- ・焼き芋づくりでは、さつまいもを自分で1個選び新聞紙とアルミホイルで包んだ。石が入った大きな鍋で石焼き芋を作った。「おいしい」「甘い」との声を聞くことができた。
- ・モルックでは、チーム対抗で試合を行った。自分で投げる位置を決めたり、仲間と相談したりする姿が見られた。
- ・別れの集いの感想発表では、楽しかったこと、うれしかったことや成長したことなどを発表した。
- ・学生サポーターにサプライズで寄せ書きメッセージをプレゼントした。

### ☆指導のポイント

- ・学生サポーターに子どもの支援方法やテントの設営方法などを事前研修をしたことで子どもに手本を見せることができた。
- ・子どもたちが自分で選び決める場面を各活動で設定をした。その分時間がかかったり、臨機応変に対応したりする場面があったが、子どもたちが進んで活動する姿がたくさん見られた。
- ・感想発表では、話型をあらかじめ決めずに行うことで、一人一人の思いや工夫が溢れる発表となった。



## 7 参加者の声

(子ども)

- ・心に残ったことは、「初対面でやさしく話しかけてくれたこと」と「みんなで活動することが楽しかった」ということです。みんなと共に活動していく内にどんどん仲よくなることができました。
- ・テントを立てられるか心配だったけど、他の人が手伝ってくれたので立てることができました。次は一人で立てられるようになりたいです。
- ・竹飯を作るために、のこぎりやナイフを使って上手にごはんが炊けてよかったです。
- ・寒かったけど、みんながしっかり自分の担当の仕事をして、できあがったちゃんこ鍋はとてもおいしかったし、頑張って作ったかいがありました。

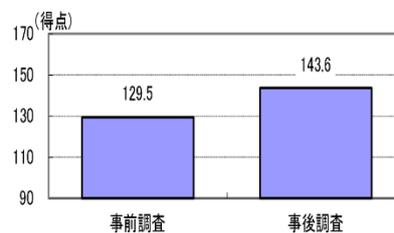
(学生サポーター)

- ・2日間の活動を通して、その人のよいところや成長しているところがたくさん見えました。みんながどんどん仲良くなっていてすごいなと思ったし、参加できてよかったと思いました。
- ・サポートする立場になってみて、一人一人に合わせた声かけ、どこまでしてあげるかの線引きなどが難しかったですが、子どもたちから、「ありがとう」と言ってもらえることや心温まる場面もたくさんありました。
- ・このキャンプは、子どもに向けたものでもあり、大学生にも向けたものであると思います。何年も子どもを見てきた職員のみなさんの背中と行動はとても印象的でした。

## 8 成果

- ・参加者アンケート（IKR 評定）では、心理的社会的能が 7.0 ポイント、徳育的能力が 2.6 ポイント、身体的能力が 4.5 ポイント、生きる力は 14.1 ポイント向上した。
- ・各活動で自分で選び、決める場面を設定した。選んだ結果上手いかなくても、周囲からプラスの言葉がけをされたり、協力して乗り越えたりすることで、自己肯定感が高まり、生きる力の向上につながったと考えられる。
- ・学生サポーターと事前にミーティングを行い、心構えを職員と共有したことで、同じ視点で活動することができた。

生きる力の変容



## 9 課題

- ・1つの活動に余裕を持った時間設定をし、子どもたちにじっくりと活動に取り組める時間を保障する。
- ・竹飯づくりでは、蓋を作るためにノコギリやナイフなど実物を使って説明し、また米を洗う回数、水の量、浸水時間を口頭で伝えた。説明項目が多かったため、覚えて作業することは難しい参加者もいた。各班に作業方法や調理などを示した手順表を準備しておけば、子どもが自分で確認しながら竹飯づくりに取り組めた。
- ・県内の児童や生徒に多くの自然体験活動が提供できるように、事業の目的、内容、魅力等を学校等に広く周知・広報活動をして、新規参加者の開拓が必要である。